

未来を明るくする方へ

中 一

六年生の総合的な学習の時間に「人の権利」について学びました。なかでも子どもの権利が特に心に残りました。僕たち子どもは「生きる権利」「自分らしく育つ権利」「守られる権利」などの権利をもっています。それなのに、戦争や地域紛争で一番犠牲になるのは子どもだということを知りました。また、日本は平和な国ですが、いじめという名の差別や、貧困のせいで、自由に話したり学んだりできない子どもがいます。調べた本には、いじめで自殺した人のことが書いてあり、とてもびっくりしたと同時に、もやもやした感情がわいてきました。

「僕は、自由に生きている。でも外国には、学校に行けずに働く子どもがいるし、無理やり兵士にされる子どももいる。日本でも、いじめがなくならない。僕だって、目の前のトラブルが、いじめで止めなきやいけないのか、放っておいていいことなのか、分からないことがある。それに、『い

じめだ、止めなきや。』と分かるときでも、乱暴な人に対しては、『やめろ。』と言えないこともあった。世の中には、どうして差別を受けている人、自由に生きられない人がいるのだろうか。そして僕は、どんなふう生きていけばいいんだろう……」。

こんなふう迷ったり、考えたりしているときに、世の中に絶望せずに、「人を大切に世の中を創ろう」と頑張っている人が、自分の身近にいることに気が付きました。その人は、僕の母です。僕が五年生のとき、母は「子ども食堂」というものを作りました。最初は、「なぜ子ども食堂なんであるのだろうか。」とっていました。そこで母に聞くと、

「親の帰りが遅く、一人でご飯を食べている人たち、ちが、みんな集まって食べるんだよ。」

と教えてくれました。僕は何度も行きましたが、そこに来る人たちはみんな笑顔で、楽しそうに食べています。

僕にとってご飯は、家族みんな話しながら楽しく食べるのが当たり前です。でも、この世の中には、僕の「当たり前」が当たり前ではない人が

たくさんいるのだと、子ども食堂を通して知りま
した。

今回、母に改めて「子ども食堂」について聞いて
みました。

Q なぜ子ども食堂を始めたのか。

A 子どもの権利を大事にしたいから。どんな状
況でも、学ぶことや楽しくご飯を食べられる場
所を提供していきたいから。子どもと、その先
にいる親を支援したい。子どもには、たくさん
の大人と関わってほしいし、大人にもたくさん
の子どもと関わってほしい。

Q 子ども食堂をやっていて、大変なことは。

A もらった寄付などから、参加者とボランティア
アの人数に応じてメニューを考えること。

毎週定期的に開くこと。働いているし家族も
いるから、時間をやりくりしなければいけない
こと。

Q 嬉しいことは。

A 最初はあまり話せなかった子が、何回も参加
するにつれて色々なことを話してくれるようにな
ったこと。参加するお母さんやボランティア
の人たちから、料理をほめてもらえること。寄

付をしてくれる人や応援してくれる人、いつも
食べにきてくれる人、いろいろな人と関わるこ
とができて、人の優しさが伝わること。

母の話を聞いて、僕は誇らしい気持ちになりま
した。そして母のように「子どもの権利を大事に
したい。」と考えて、実行に移す人が一人でも増え
ていくことが、僕の願いです。一人の行動が周り
の人たちを変え、日本を変え、世界までも変えて、
もっと人間らしい、もっとすばらしい世の中を創
れると思います。

最後に、母が運営している子ども食堂の名前は、
僕の名前にちなんだ「子ども食堂ひなた」です。
僕も、「二つの行動でまわりを照らし、未来を明る
い方へ変えられる人になるんだ。」と決意していま
す。

僕は将来、小学校の先生になり、子どもたちと
関わる仕事に就きたいと思っています。なぜかと
いうと、子どもたちに希望を与え、夢を応援でき
るのは人間だけで、それは、僕がやるべきことだ
と思うからです。そして僕は、子どもたちの権利
を大切にして、夢をもち続けることを教え、子ど
もたちの「これから」を大切にしていきたいです。